

— 昆 虫 —

昆虫の概要

今回の自然環境調査では、ノコギリクワガタ・ミヤマクワガタ・コクワガタやカブトムシ・コカブト・マヤサンコブヤハズカミキリ・ラミーカミキリなどの甲虫類、キリギリス・オンブバッタ・ナナフシムシなどのバッタ類その他多くの昆虫も観察はできたが、それぞれの目（グループ）には種類が多く、そのすべてを解明することができず、まとめるには至っていない。

ここには、永年の調査データがある蝶亜目（チョウ類）を主に、トンボ研究会の調査をもとに琵琶湖博物館がまとめた「滋賀県のトンボ」を参考資料として調査を実施したトンボ目（トンボの仲間）・鳴き声だけで確認できるセミ科（半翅目セミ科）をまとめることにした。

チョウ類は、滋賀県産の約 75%（94 種）が記録されているが、その中にはクジャクチョウ・シルビアシジミのように記録だけの種、オオウラギンヒョウモンのように以前はあちこちで見られたが、この 10 年以上記録もなく絶滅したと考えられる種もある。「春の女神」とも呼ばれるギフチョウ、「日本の国蝶」であるオオムラサキは、現在も見られるが幼虫の食草や成虫の訪花植物の減少など環境の変化の影響をうけ、観察しにくくなってきた。温暖化の影響か、北上する種がよく話題となるが、彦根市でもナガサキアゲハ・ツマグロヒョウモン・クロコノマチョウの 3 種があげられる。最も早く入ったのはツマグロヒョウモンで、今ではヒョウモンチョウの仲間では、最も多く見られるようになってしまった。食草はスミレ類で、栽培されたパンジーでも繁殖し、金色に光る蛹（さなぎ）に驚かれることもよくある。クロコノマチョウはススキが幼虫の食草で市内のあちこちで記録されているが、夕方薄暗くなってから活発に活動するため、目につきにくい。最も遅く入ってきたのはナガサキアゲハで、北上してから未だ 5 年程度だが、毎年 1~2 頭は記録され、年々見られる数も増えている。幼虫はミカン類の葉を食べて育つので、もっと多くなると考えられる。現在は確認されていないが、彦根市近隣の記録から、イシガケチョウ（食草はイチジク）・ムラサキツバメ（食草はマテバシイ）も近く北上してくる可能性が考えられる。南方系の種が北上してきた反面、北方系のシータテハが武奈町・男鬼町の山地で発生し、春先には中山町・原町など低地に下がり、ギフチョウの時期に時々見られたのが、最近ではほとんど見られなくなった。

トンボ類は滋賀県産の約 75%（74 種）が記録されている。文献上では彦根市から未記録だったルリボシヤンマが今回の調査で武奈町から記録できたことは幸いだった。一方、ナニワトンボが発生すると記録されていた沼地が今はなくなり、今回の調査では確認できず、彦根市では絶滅したのではないかと心配される。「生きた化石」と呼ばれるムカシトンボ、美しいエゾトンボ・タカネトンボなどが観察できる武奈町、男鬼町の清流や楽園となっている笹尾町の湿地（休耕田）などは大切にしたいトンボ類の宝庫だと考えられる。

セミ類は滋賀県産の約 80%（8 種）が記録されている。温暖化の影響か、以前は珍しか

ったクマゼミが多くなり、特に市街地の舗装地では夏になると鳴き声で喧しくなっている。一方で、秋に発生するチッチゼミは、松枯れが進み松山が少なくなるとともに鳴き声もあまり聞かれなくなってきた。

今回の調査では、昆虫相のすべてを調査することはできなかったが、残された分野も将来完成されることを期待している。

今回の調査期間中には、温暖化によって北上する種がある反面、環境の変化など人為的な原因で観察が困難になってきた種も見られる。調査を実施している中で、他生物との共存を大切にすることの必要性を強く感じた。

<参考文献>

滋賀県琵琶湖環境部自然保護課（編）．2000．滋賀県で大切にすべき野生生物（2000年版）

蜻蛉研究会（編）．1998．琵琶湖博物館研究調査報告 第10号 滋賀県のトンボ．滋賀県琵琶湖博物館

環境省自然保護局計画課自然環境調査室（1997）都道府県別メッシュマップ 25 滋賀県

（布藤 美之）

貴重種の解説・調査結果について

—貴重種の解説—

①ツマグロキチョウ	②Eurema laeta betheseba	③絶滅危惧種
④シロチョウ科	⑤滋賀県：—	⑥国：絶滅危惧Ⅱ類

- ⑦形態の特徴
- ⑧生息環境
- ⑨減少の要因
- ⑩保全対策

- ① 和名
- ② 学名
- ④ 科名
- ③ 彦根市におけるカテゴリー区分
- ⑤ 滋賀県で大切にすべき野生生物によるカテゴリー区分
- ⑥ 環境省のカテゴリー区分
- ⑦ 種の概略の大きさ、わかりやすい外形的な特徴等を記載。近似種がある場合はその区別点等についても記載。
- ⑧ 生息環境や市内の分布状況を具体的に記載。
- ⑨ 減少要因を記載。減少要因が複数ある場合は、最も要因の高いものを記載。
- ⑩ 保全対策があれば、記載。

○メッシュ地図について

メッシュは環境省のメッシュ地図を使用しています。

メッシュの凡例

 今回の調査での確認情報

※ 分布状況を示すにあたり、メッシュによる表示を行っていますが、これは、メッシュ内全域に確認記録があるというわけではなく、メッシュ内のどこかに確認記録があるということです。

—調査結果—

○チョウの仲間

科名	種名	分布状況等	国	県	市
	学名				
①シロチョウ科	②キチョウ ③Eurema …	④市内各地	⑤	⑥	⑦

○トンボ、セミの仲間

科名	種名	生息環境	国	県
	学名			
①ヤンマ科	②ギンヤンマ ③Anax …	⑧	⑤	⑥

- ① 科名
- ② 種名
- ③ 学名
- ④ 今回の調査結果を記載
- ⑤ 環境省のカテゴリー区分
- ⑥ 滋賀県で大切にすべき野生生物によるカテゴリー区分
- ⑦ 彦根市におけるカテゴリー区分
- ⑧ 生息している環境を記載

※ トンボとセミの仲間については、十分な現地調査ができていないことから、彦根市内で確認できる種についてその生息環境を記載しました。

なお、トンボの仲間については、「琵琶湖博物館研究調査報告 第10号 滋賀県のトンボ 1998年8月 琵琶湖博物館発行」を参考に情報の整理を行いました。

カテゴリーに記載している記号について

⑤環境省		⑥滋賀県		⑦彦根市	
絶滅	EX	絶滅危惧種	I	絶滅種	A
野生絶滅	EW	絶滅危機増大種	II	絶滅危惧種	B
絶滅危惧Ⅰ類	CR+EN	希少種	III	危急種	C
絶滅危惧Ⅱ類	VU	要注目種	IV	希少種	D
準絶滅危惧	NT	分布上重要種	V	要注目種	E
情報不足	DD	その他重要種	VI		
		絶滅種	VII		

※ 今回の調査結果で、絶滅のおそれのある種とその現状が明らかになりました。本書において、本来こうした情報をすべて記載し、野生生物の保全に役立てるべきものと考えますが、こうした情報の公開については、逆に希少性という観点から採取されてしまう恐れが発生します。

こうしたことから、貴重な野生生物のうち、特にその分布状況や生息（生育）地について公開すべきでないと判断したものについては、部分的に非公開として、記載をひかえています。

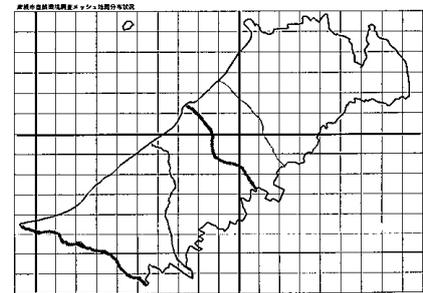
オオウラギンヒョウモン *Fabriciana nerippe*

絶滅種

タテハチョウ科

滋賀県：絶滅危惧種 国：絶滅危惧 I 類

形態の特徴 雄の翅表は濃橙色、雌の翅表はより黒っぽく、黒斑も大型である。雌の前翅端には白斑がある。ウラギンヒョウモンと似ているため、誤同定されることがあるが、後翅裏面の亜外縁にならぶ銀白色の内側をふちどる黒褐色(表面では黒色)の縁どりが、ウラギンヒョウモンでは山形(n字形)だが、オオウラギンヒョウモンは山の中央部がへこんだ m 字形になっている。表面も同様である。成虫は年 1 回、6~7 月に発生する。幼虫で越冬し、幼虫はマスマイレなど長葉のスマイレを食べる。



生息環境 1960 年頃には、平地から低山地の草原に多く、彦根市でも仏生寺町、武奈町で確認されているが、農薬の空中散布が盛んになった頃から、彦根市に限らず、滋賀県、日本各地でも減少し、近年は九州と中国地方の一部で発生が確認されているだけである。

減少の要因 各地で農薬使用が盛んになった頃に姿を消している。九州などで発生を続けている場所は、自衛隊の演習場や特別保護区などで、農薬も殆ど使用せず、幼虫の食草マスマイレや成虫の訪花植物アザミなどが豊富で、草原が保護管理された地に限られている。

保全対策 この 30 年以上確認できていないので、彦根市産は既に絶滅したと考えられる。

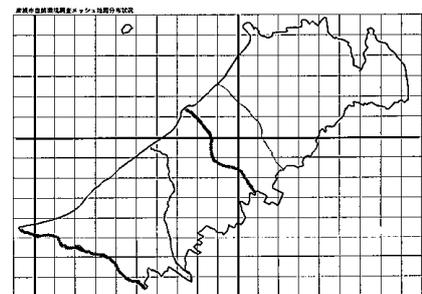
シルビアシジミ *Zizina otis*

絶滅種

シジミチョウ科

滋賀県：絶滅危惧種 国：絶滅危惧 I 類

形態の特徴 雄の翅表は青藍色、雌の翅表は暗褐色だが、春・秋型には、前翅基部に青色鱗を表す個体も多い。ヤマトシジミに似ているが、後翅裏面の第 6 室の黒斑が第 7 室の黒斑の真下であり、ヤマトシジミでは、第 6 室の黒斑が外側にあり、黒斑が亜外縁の内側に丸く並んでいる。成虫は 4~10 月の間に数回発生する。幼虫で越冬し、ミヤコグサを食べて育つ。



生息環境 ミヤコグサの群落がある荒地、川原、土手に生息している。彦根市では、1952 年 8 月 25 日、武奈町で雌の記録があるが、現在は記録された場所もすっかり様子が変わっている。

減少の要因 発生を続けていたのが、畑地への変化によってミヤコグサも絶えた為か、偶産だったかは不明だが、現在は見る事ができない。

保全対策 記録後、彦根市(滋賀県でも)ではどこでも確認されていないので、絶滅したのではと考えられる。

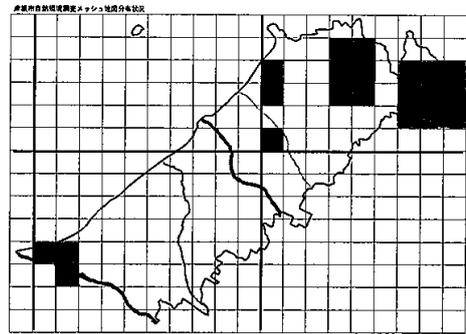
ツマグロキチョウ *Eurema laeta betheseba*

絶滅危惧種

シロチョウ科

滋賀県：－ 国：絶滅危惧Ⅱ類

形態の特徴 翅表は黄色で、季節型の差が大きい。夏型はキチョウに似ているため、よく誤同定されるが、前翅端が角ばり、外縁にある黒帯の後縁への広がりがないことや、キチョウよりはるかに小さいことで区別できる。秋型は前翅の形に特徴があり、後翅裏面に表れる褐色の2条で区別する。夏型は6月頃に発生し、秋型は9～10月に発生し、成虫で越冬する。越冬した雌は、カワラケツメイに産卵し、孵化した幼虫は、カワラケツメイを食べて育つ。



生息環境 カワラケツメイの群落のある荒地、川原、草原で発生する。彦根市では、新海町・雨壺山・金亀町・鳥居本町・中山町・男鬼町・武奈町などの多くの地で確認できたが、この数年は見られない。全国的にも減少傾向が見られる。

減少の要因 近年カワラケツメイの群落が見られなくなりつつある。新海町付近の愛知川の川原には残っているが、群落も小さく、ツマグロキチョウの姿は見られない。

保全対策 カワラケツメイの群落が豊富な川原や草地を残し育てる。

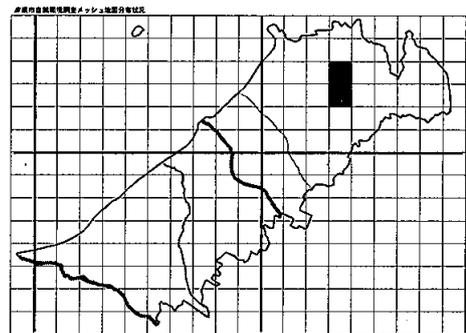
ウラナミアカシジミ *Japonica saepestriata saepestriata*

絶滅危惧種

シジミチョウ科

滋賀県：－ 国：－

形態の特徴 表面は雌の前翅端には黒帯があるが、雄にはない。裏面は雄雌で変わりはなく、黒い独特な網状模様がある。成虫は6～7月に発生する。卵で越冬し、3～4月に孵化した幼虫は、クヌギなどの新芽を食べて育つ。



生息環境 コナラ、クヌギ、アベマキ、ミズナラなどブナ科植物の多い森林、堤防、山地に生息する。彦根市では、鳥居本町で確認されていたが、発生木のあった林は現在、住宅になっているため、現在確認できていない。その周囲には、クヌギなどの山地があるため、生存の可能性は残っている。

減少の要因 発生木のある森林が開発されたのが原因だと考えられる。滋賀県でも各地で減少傾向が見られる。

保全対策 発生木のあった近くの里山の保護と育成。

ウスイロオナガシジミ *Antigius butleri*

絶滅危惧種

シジミチョウ科

滋賀県：— 国：—

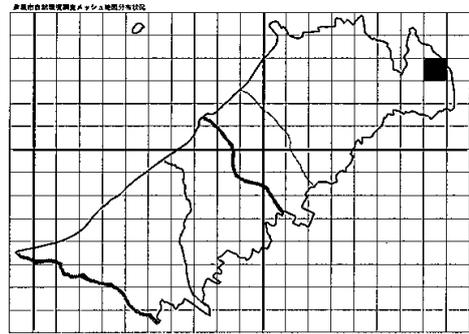
形態の特徴 翅表は、やや淡い黒褐色で、後翅の亜外縁に白斑が並ぶ。翅の表面、裏面ともに雄雌の違いはない。成虫は年1回、6～7月に発生し、卵で越冬する。3～4月に孵化した幼虫は、ヒズナラなどの新芽を食べて育つ。

生息環境 ミズナラ、ナラガシワの多い山地や森林に生息している。彦根市では、2001年に武奈町で目撃されたのが、文献に発表されただけだが、武奈町に残されたミズナラのあ
る山地から、アイノミドリシジミなどを確認しているの
で、生息していると考えられる。

減少の要因 武奈町付近のミズナラの林が、年々少なくなっている。

保全対策 山地のミズナラなどブナ科植物を保護する。

備考 近似種ミズイロオナガシジミと比べて、翅表の色が淡いことから、ウスイロの和名がつけられた。



フジミドリシジミ *Sibatanozephyrus fujisanus*

絶滅危惧種

シジミチョウ科

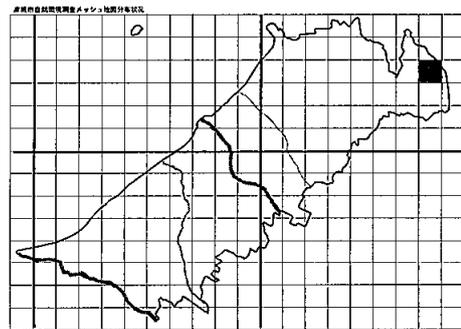
滋賀県：— 国：—

形態の特徴 雄の翅表は、光沢のある青色である。雌は黒褐色で前翅中室の外側の白紋はない。他のミドリシジミに比べて小さく、裏面の模様も特異なため近似種と簡単に区別できる。成虫は年1回、6月に発生する。卵で越冬し、3～4月に孵化した幼虫はブナの新芽を食べて育つ。

生息環境 ブナ・イヌブナのある山地。彦根市では、武奈町にあるブナの樹で細々と発生を続けている。

減少の要因 ブナはあまり重要視されず、少なくなってきた。

保全対策 ブナの増殖とブナ科植物の多い山地の保護と保存。



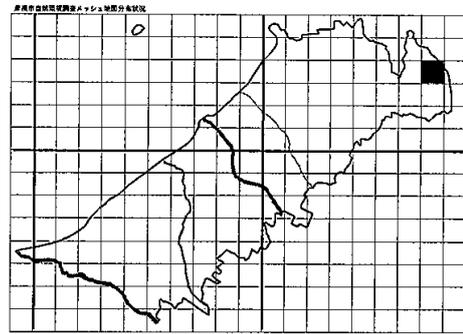
アイノミドリシジミ *Crysozephyrus brilliantinus*

危急種

シジミチョウ科

滋賀県：－ 国：－

形態の特徴 雄の翅表は金属光沢の強い金緑色で、雌の翅表は、赤紋をもつA型、赤紋・青紋をもつAB型が多いが、赤青ともにもたないO型、青紋だけをもつB型も地域によって僅かだが出現する。一般に東、北方産はA型が多く、西、南方産はAB型が多くなる。彦根市では、A型・AB型の両型が見られる。成虫は年1回、6～7月に発生し、雄は午前飛翔で、早朝日光を受けて6時頃には飛び出し、9時頃には姿を消す。卵で越冬し、3～4月に孵化した幼虫は、ミズナラなどブナ科植物の新芽を食べて育つ。



生息環境 山地性で、ミズナラ、コナラ、ナラガシワなどブナ科植物の多い山地に生息している。彦根市では、ミズナラのある武奈町の山地で確認しているが、多くない。

減少の要因 武奈町のミズナラの多い山地が年々少なくなっているため。

保全対策 ブナ科植物のある山地の保護と育成。現在、彦根市で最もブナ科植物が残っている山地は、男鬼町と武奈町だと考えられる。

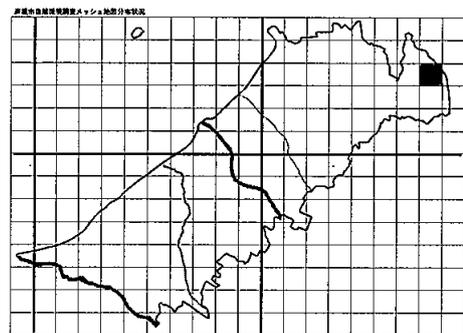
ヒサマツミドリシジミ *Chrysozephyrus hisamatsusanus*

危急種

シジミチョウ科

滋賀県：－ 国：－

形態の特徴 雄の翅表は金緑色だが、輝きはややにぶい。雌はAB型が普通だが、B型もある。雄雌とも尾状突起は、ミドリシジミ類では、最も長い。後翅裏面にある白帯は他のミドリシジミ類はW字状だが、本種はV字である。雄は午後になると飛びだす。年1回、6月下旬に発生し、卵で越冬する。3月に孵化した幼虫はウラジロガシの新芽を食べて育つ。

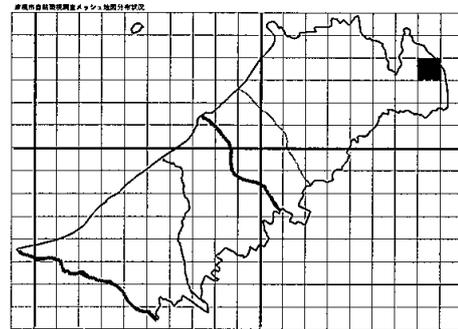


生息環境 暖地性のミドリシジミ類で、ウラジロガシのある山地に生息する。彦根市では、武奈町のウラジロガシのある山地で見られるが多くない。なお、年によって増減がはなはだしい。

減少の要因 年による増減の大きさとウラジロガシの減少。

保全対策 ウラジロガシの多い山地の保護と育成。

形態の特徴 雄の翅表は青味の強い緑色で、外縁の黒帯はオオミドリシジミに比べると巾が広い。裏面は、雄は灰白色で雌は淡褐色である。後翅の肛角にある橙色紋は、お互いに上下ともにつながっている。雄は、お昼頃から活動をはじめ、夕暮れには活発に飛びまわる。成虫は年1回、6～7月に発生する。卵で越冬し、3～4月に孵化した幼虫はミズナラの新芽を食べて育つ。

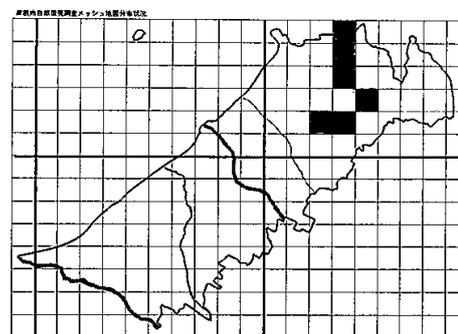


生息環境 ミズナラのある山地に生息する。彦根市では、武奈町のミズナラのある山地で確認しているが多くはない。

減少の要因 ミズナラなどのブナ科植物の多い山地が少なくなった。

保全対策 ブナ科植物の多い山地の保存。

形態の特徴 黄色の下地に黒い縞模様をもつ。後翅には外苑ぞいに青紋と赤紋がある。交尾後の雌は、腹端に受胎嚢を付着する。黄色部の広さ、赤色紋の広がりには地域差があり、彦根市産は、黄色部が狭く黒っぽい。成虫は年1回、4月上旬（暖冬の年には3月下旬に羽化する時もある）に発生する。幼虫はカンアオイ類を食べる。



生息環境 食草カンアオイ類（彦根市では、ミヤコカンアオイ）の群落が多く、成虫が訪花するスマレ・カタクリ・サクラなど吸蜜植物が多い、日当たりの良い広場もある里山。

減少の要因 杉の植林による里山の減少。ミヤコカンアオイは、秋から冬期は日光も欲しく、夏期は涼しく風通しの良い方を喜ぶ。杉林の場合、若木の間は地面に風もあたり、日光も届くが、杉の生長とともに地表には日光もあたりにくく、風通しも悪くなり、シダ類の世界になり、カンアオイ類は育ちにくくなる。また、好日性のスマレなども育ちにくくなる。

保全対策 里山の復活。現在の杉林は十分な枝打ちと下に落とした枝の始末をして風・日光が地表にあたり、通るように配慮する。また訪花植物を増やす。

備考 日本固有種

ミヤマチャバネセセリ *Pelopidas jansonis*

希少種

セセリチョウ科

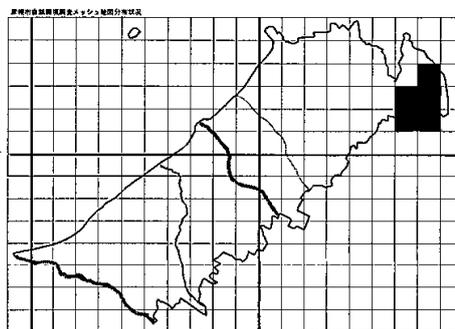
滋賀県：— 国：—

形態の特徴 表面の地色は暗褐色で、数個の小白斑がある。後翅裏面の中室内に顕著な大形の銀白斑があるので、類似種と一見して区別される。成虫は年2回発生し、5～6月と7～8月に出現する。幼虫はススキ・オオアブラススキ・チガヤなどを食べる。

生息環境 武奈町など山地の草原で見られ、アザミなどの草花上に見られることが多い。

減少の要因 元々多い種では無いが、草原が少なくなる傾向が見られる。

保全対策 食草のススキや訪花植物のアザミが多く、日当たりの良い草原の確保。



ジャコウアゲハ *Atrophaneura alcinous*

希少種

アゲハチョウ科

滋賀県：— 国：—

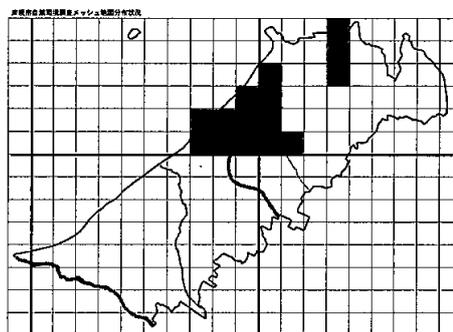
形態の特徴 雄の翅表は黒色、雌の翅表は黄灰色である。（地域によって変異がある）後翅亜外縁の弦月紋は、雄の表面では無いか弱く見られる程度だが、雌には明瞭に現われ、裏面では、雄雌ともに明瞭である。成虫は年2回、5～6月と7～8月に発生する。幼虫はウマノズクサを食べる。

生息環境 河川の堤防や石垣のある草原など、食草ウマノズクサが見られ、アザミ等の訪花植物も見られる日当たりの良い草地に生息する。墓地に見られることも多い。

減少の要因 ウマノズクサは雑草として刈り取られることが多く、その時期によって卵・幼虫が死滅する場合がある。彦根市の場合、芹川・犬上川の堤防の所々に分布している。近年は犬上川下流の堤防では多く見られるが、芹川の堤防ではあまり見られなくなっている。年によっては発生にむらがある。

保全対策 ウマノズクサの分布確認と堤防の植物環境の保全。除草時期の確認。

備考 成虫は捕らえられた時、一種の香気を放つところから、ジャコウの和名がつけられた。



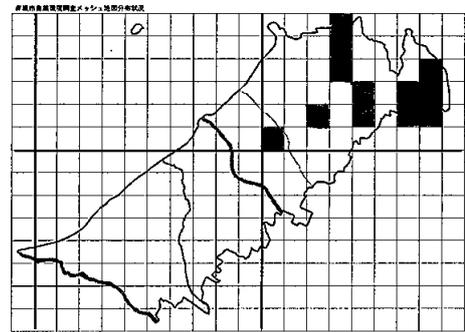
オオムラサキ *Sasakia charonda charonda*

希少種

タテハチョウ科

滋賀県：絶滅危機増大種 国：準絶滅危惧

形態の特徴 雄は前後翅とも表面の中央部が紫色に光るが、雌は紫色がない。裏面は黄色型と白色型があり、北海道産は黄色型だけで南下、西へ下りるほど白色型が多くなる。彦根市では、黄色型・白色型の両型ともに見られるが、白色型の方が多い。成虫は年1回、6月中旬～7月上旬に発生する。幼虫はエノキを食べる。



生息環境 成虫が飛来する樹液を出すブナ科植物（クスギ等）の多い林があり、食樹エノキも見られる里山。彦根市では仏生寺町など数箇所を確認している。

減少の要因 土地造成などにより里山は失われ、産卵木エノキも伐採された。越冬幼虫の冬眠場所も少なくなった。

保全対策 食樹エノキと成虫のエネルギー源である樹液を出す樹木の林の確保。7月頃に産卵され、孵化した幼虫は、寒くなると3～4令で樹からおり（時に樹上や樹木のほこらで越冬する幼虫もいる）エノキなどの落葉の裏面で越冬するため、越冬幼虫の保温にも十分な落葉がエノキの根元に確保される環境が必要である。

備考 日本の国蝶

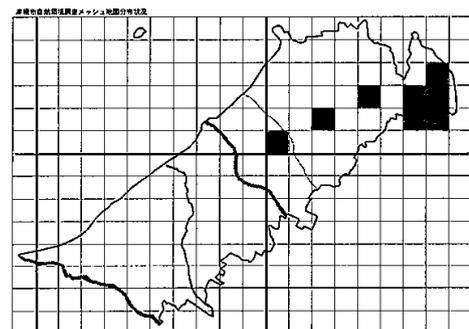
クモガタヒョウモン *Nephargynnis anadyomene ella*

希少種

タテハチョウ科

滋賀県：希少種 国：一

形態の特徴 雄の翅表地色は明るい橙色で、前翅に細い黒色の発光鱗がある。雌は暗橙色で前翅端の近くに三角形の小白紋がある。後翅裏面の雲のような模様で他のヒョウモン類との区別は容易である。成虫は年1回、5月中旬に発生し、しばらくウツギなどへの訪花が見られるが、やがて夏眠にはいり、9～10月に再び姿をあらわし産卵する。孵化した幼虫はスミレ類を食し越冬する。



生息環境 タチツボスミレなどのスミレ類の多い日当たりの良い草原に生息する。彦根市では、原町・雨壺山など数箇所を確認している。

減少の要因 もともと多い種ではなく夏眠をする為、目につきにくい種である。開発等により、生息地の減少が心配である。

保全対策 食草タチツボスミレなどが多く、日当たりのよい草原の確保。

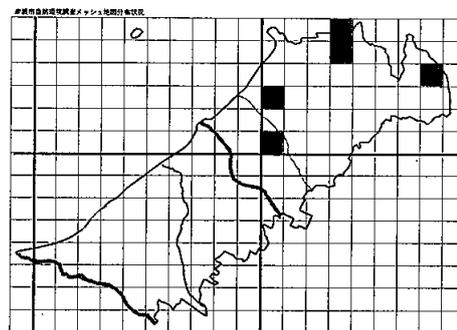
備考 後翅裏面の雲形の模様から、クモガタヒョウモンの和名がつけられた。

ゴイシシジミ *Taraka hamada hamada*
シジミチョウ科

希少種

滋賀県：希少種 国：－

形態の特徴 雄雌ともに翅表は黒褐色で、裏面は白地にゴイシ状の小黑斑が全面に配列している。多くの個体数を見る機会が少ない為、彦根市での発生回数をはっきりしていないが、5月・7月・8月・9月に発生を記録しているので、年数回は発生していると考えられる。幼虫は肉食性で、タケ、ササに寄生するタケノアブラムシを食餌とする。



生息環境 ササ原があり、そこにはタケノアブラムシが寄生していなければゴイシシジミは生育できない。彦根市では、武奈町など数箇所を確認しているが、タケノアブラムシの発生状態によってはみられなくなったり、思わぬ所から記録されたりする。

減少の要因 彦根市では、記録の多い種ではない。タケノアブラムシの発生状態によって、ゴイシシジミの発生量の変動が大きいようで、一度に10数頭見られた場所が数頭しか見られなくなったり、発生しなくなったりすることもある。

保全対策 タケノアブラムシが発生できるようなササ原の保存。

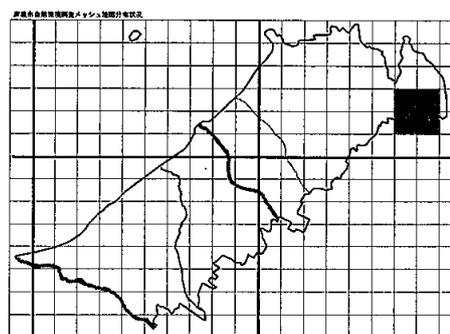
備考 成虫の裏面の碁石模様から、ゴイシシジミの和名がつけられた。

ミヤマカラスシジミ *Fixsenia mera*
シジミチョウ科

希少種

滋賀県：希少種 国：－

形態の特徴 色彩斑紋は雄雌ともに変わりなく、雄は雌よりやや大きい。翅表は黒褐色で雄は前翅の中室端に白っぽい楕円形の小さい性斑がある。裏面は黄褐色の地色で後翅にはW字の白帯がある。近似のカラスシジミとはW字の広がりで見分けできる。成虫は年1回、6月下旬～7月に発生する。幼虫はコバノクロウメモドキを食べる。



生息環境 食樹コバノクロウメモドキは石灰岩地帯に多く、成虫もそのような林に生息している。彦根市では、男鬼町の山林で確認している。

減少の要因 彦根地方では、元々多い蝶ではない。役にたたない樹としてコバノクロウメモドキが伐採される可能性がある。

保全対策 山林の手入れ時にコバノクロウメモドキを保護する。

ウラゴマダラシジミ *Artopoetes pryeri*

希少種

シジミチョウ科

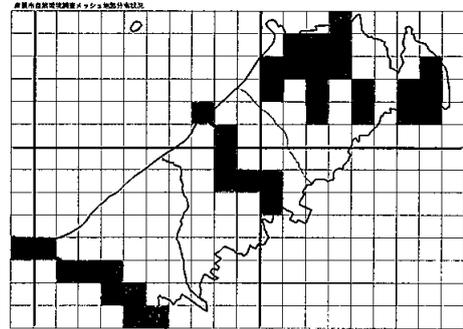
滋賀県：— 国：—

形態の特徴 翅表は中央部に青色部をもち、外側は黒色で囲まれる。前翅青色部の外側に白斑が見られるが、雌では特に白色部が増大する。後翅の青色部の広さは、地域差がある。成虫は年1回、5月中下旬に発生し、特に夕方には活発に飛びまわる。卵で越冬し、3~4月に孵化する。幼虫はイボタを食べる。

生息環境 平地・山地のイボタのある雑木林に発生する。彦根市では、宇尾町・原町、笹尾町などで確認している。

減少の要因 開発・植林などによる雑木林の減少。

保全対策 雑木林の保存。



ウラキンシジミ *Ussuriana stygiana*

希少種

シジミチョウ科

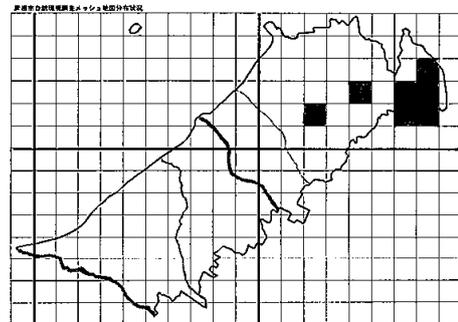
滋賀県：— 国：—

形態の特徴 雄雌ともに成虫の翅表は黒褐色だが、雌の方がやや淡い。裏面は黄金色で、雄はやや黒味を帯び、雌の方が明るい。裏面の色は、寒い地方ほど明るく、暖かい地方ほど暗化する。成虫は年1回、7月に発生する。卵で越冬し、3~4月に孵化する。幼虫はコバノトネリコなどを食べる。

生息環境 一般に山地性だが、琵琶湖周辺では低山地でもコバノトネリコのある里山で発生する。彦根市では、小野町・仏生寺町・武奈町などで確認している。

減少の要因 山地の破壊による食樹コバノトネリコの減少による。仏生寺町の場合、道路開発により山地の一部が削られ、成虫の産卵木が消失し個体数が減少した。

保全対策 コバノトネリコ・アオダモなど食樹のある山地の保存。



アカシジミ *Japonica lutea lutea*

希少種

シジミチョウ科

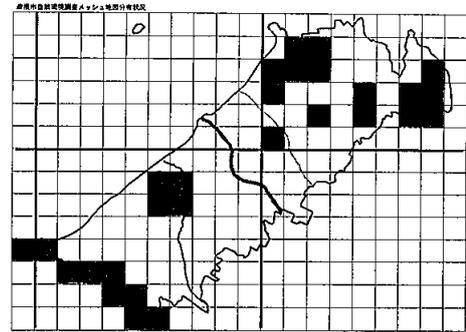
滋賀県：— 国：—

形態の特徴 翅表の色から和名がつけられている。雄雌の斑紋に変わりはないが、外見的には翅形や腹部の形態で何とか識別できる。成虫は年1回、6月に発生する。卵で越冬し、3～4月に孵化した幼虫はクヌギ・アベマキなどブナ科植物の新芽を食べる。

生息環境 クヌギ・アベマキ・ミズナラ・ナラガシワなどブナ科植物が豊富な河川堤防の林や低山地・山地に生息する。

減少の要因 堤防・山地ともに杉の植林や竹の繁殖によって、ブナ科植物が被害を受けた。

保全対策 ブナ科植物の豊富な森林や里山・山地の復活と保全。



ミズイロオナガシジミ *Antigius attilia attilia*

希少種

シジミチョウ科

滋賀県：— 国：—

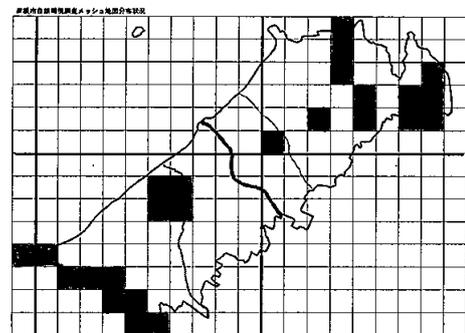
形態の特徴 翅表は黒褐色で、後翅にいくつかの白い小斑をもつ場合もある。色彩斑紋や大きさ、翅形で雄雌を判別することは困難で、腹端部をルーペなどで見る必要がある。成虫は年1回、6月に発生する。卵で越冬し、3～4月に孵化した成虫はクヌギ・アベマキなどブナ科植物の新芽を食べる。

生息環境 クヌギ・アベマキ・ミズナラ・ナラガシワ

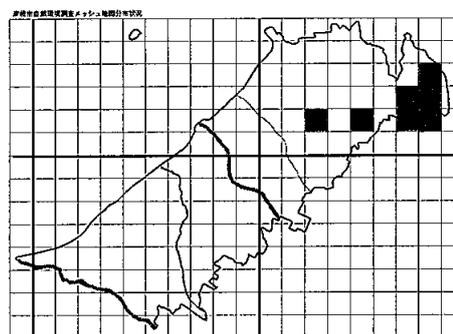
などブナ科植物が豊富な河川堤防の林や低山地・山地に生息する。彦根市では、芹川・犬上川・愛知川の堤防にある林、雨壺山、原町、笹尾町など、発生地は多い。

減少の要因 発生地は多く見られるが、クヌギなどブナ科植物のへった発生地で発生個体数の減少の傾向が見られる。

保全対策 ブナ科植物の豊富な森林や里山・山地の復活と保全。



形態の特徴 雄の翅表は銀白色、雌は外縁が広く黒色でその内側は灰白色で、雄雌は一見して区別できる。裏面は黒っぽい褐色で雄雌大差はない。成虫は夕暮れの活動が活発で群れて飛ぶ雄の姿は、銀白色に光り美しい。成虫は年1回、6月に発生する。卵で越冬し、3～4月に孵化した幼虫はマンサクの新芽を食べる。

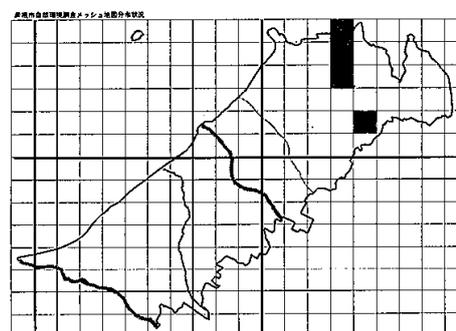


生息環境 一般に山地性だが、滋賀県では平地や低山地でも、局地的だが食樹マンサクのある森林や山地でも発生する。彦根市では、原町・笹尾町・男鬼町・武奈町で確認している。

減少の要因 森林や山地の開発などにより環境が破壊されつつある。特にマンサクは無用の樹として刈り取られることがよくある。

保全対策 マンサクのある雑木林の保護。

形態の特徴 成虫雄の翅表は金緑色で、前後翅ともに外縁に幅広い黒帯がある。雌の翅表は変異があり地色は暗褐色だが、全体に暗褐色のもの（O型）、前翅の中室の外に赤い紋の現われたもの（A型）、前翅の基部から外縁にむかって帯のような青い紋の現われたもの（B型）、前翅に赤紋と青紋を共に現したもの（AB型）があり、彦根市では全型が見られるが、B型が多く、O型・AB型は少ない。A型・AB型の雌は、アイノミドリシジミの雌に似ている。成虫は年1回、6月中下旬に発生する。卵は食樹の枝や幹にかためて産卵することが多い。卵で越冬し、4月に孵化した幼虫はハンノキの新芽を食べる。



生息環境 ハンノキのある田園の周辺や山すそにある湿地、ハンノキ・ヤマハンノキのある山地で発生する。彦根市では、笹尾町、中山町、鳥居本町などで確認している。

減少の要因 田園および湿原の減少に伴い、食樹ハンノキも少なくなってきた。かつて日夏町の荒神山山麓で発生していたが、山麓の開発で湿原が失われ、現在は見られなくなった。笹尾町では、休耕田が湿原となり、ハンノキも多くなり、彦根市では最も多く見ることができるようになっている。

保全対策 ハンノキ林の保存と湿原の保全。

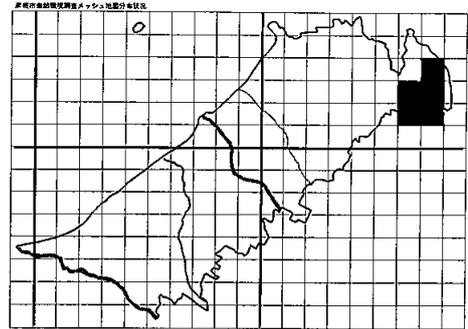
キリシマミドリシジミ *Crysozephyrus ataxus kirishimaensis*

希少種

シジミチョウ科

滋賀県：— 国：—

形態の特徴 成虫の翅表は金属光沢のある黄色味が強い緑色で、外縁の黒帯は細い。雌の翅表はB型（青紋の現われる）・AB型（青紋と赤紋の現われる）があり、B型が多く、AB型でも赤紋の現われ方の弱いものが多い。雄の裏面は、銀白色の下地に弱い褐色紋があり、雌の裏面は、褐色の地に白い帯紋をもち独特である。ミドリシジミ族の中で裏面の模様がちがうのは本種だけである。ミドリシジミ族の中では、出現期が遅く、成虫は7月下旬に発生し、雄は日中に樹上を飛びまわる。卵で越冬し、3~4月に孵化した幼虫はアカガシの新芽を食べる。



生息環境 ブナ科植物のアカガシが豊富な山地に生息する。彦根市では、武奈町、男鬼町の山地で確認しているが、個体数は年によって変動がある。

減少の要因 生活様式が変わり、木炭用のアカガシは必要性が減り、杉の植林が進められた。

保全対策 武奈町、男鬼町の山地のアカガシ、ツクバネガシの保護と増殖。

備考 三重県では、キリシマミドリシジミを天然記念物に県指定。

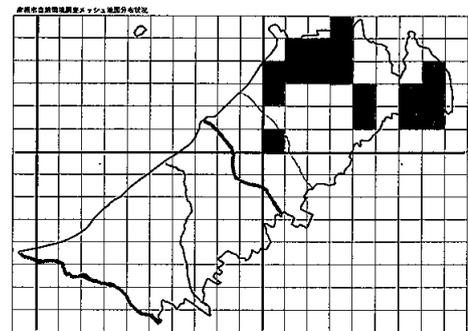
オオミドリシジミ *Favonius orientalis*

希少種

シジミチョウ科

滋賀県：— 国：—

形態の特徴 成虫の雄の翅表は青味の強い緑色で、外縁の黒帯は細い。雌の翅表は暗褐色で、前翅の中室の外に小さい白っぽい紋がある。裏面は、雄雌ともに灰白色で、後翅の肛角にある2個の橙色紋が完全に分離している。成虫は年1回、6月下旬に発生する。卵で越冬し、3~4月に孵化した幼虫はクヌギなどの新芽を食べる。



生息環境 コナラ、クヌギ、アベマキ、ミズナラ、ナラガシワなどのブナ科植物のある平地、山地と分布は広いが、どこも個体数は少ない。彦根市では、男鬼町、武奈町、中山町、鳥居本町、原町、雨壺山、荒神山、愛知川流域などで確認しているが、どこでも個体数は少ない。

減少の要因 ブナ科植物の多い森林、山地が少なくなった。

保全対策 ブナ科植物の多い里山や山地の保存。

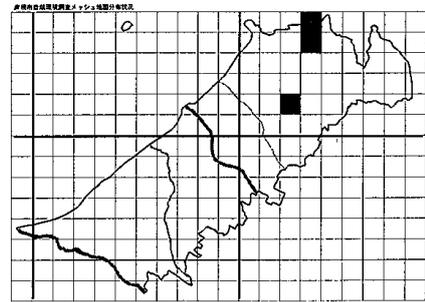
シータテハ *Polygonia c-album hamigera*

要注目種

タテハチョウ科

滋賀県：— 国：—

形態の特徴 夏型と秋型があり、秋型は外縁の凹凸がはげしい。夏型は、キタテハの秋型に似ているが、シータテハは後翅第4脈端の尾状突起が長く突出している。キタテハの後翅亜外縁の内側にある黒斑上に藍色鱗があり、本種は藍色鱗がない。後翅裏面にある銀白色斑はキタテハではL字だが、本種はC字になっている。夏型は6~7月に発生し、秋型は8月に発生する。成虫で越冬し産卵する。孵化した幼虫は、ハルニレ、アキニレ、エノキ、カラハナソウ、コアカソなどを食べて育つ。



生息環境 近畿地方では、山地性で北方系の希種である。山間の日当たりの良い道にとまっていることもある。秋型は越冬後、春先に山麓へ降りてくることがある。彦根市では、武奈町、男鬼町で夏型が、春先に中山町、原町で越冬後の秋型が時々確認されたが、この数年は見られない。

減少の要因 記録的にしか観察もできない貴重種なので、彦根市での食草などもはっきりしていない。夏型も武奈町、男鬼町から採集されている点から、近くで発生していたと考えられる。最近見られなくなった理由は不明。

備考 後翅裏面の銀白斑“C”から和名シータテハとつけられた。

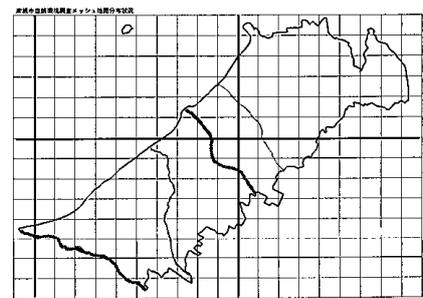
クジャクチョウ *Inachis io geisha*

要注目種

タテハチョウ科

滋賀県：— 国：—

形態の特徴 北方系の種で北海道では、平地にも多いが、本州では山地の蝶である。雄雌とも斑紋は変わらない。表面は赤色の地に黒帯や白斑があり、後翅表面には大きな眼状紋もあり羽を広げたクジャクのように美しい。年2回、6~7月、8~9月に発生する。山地の蝶だが、晩秋や早春には平地でも目撃や採集されることもある。それは近隣の山地から飛来したと考えられている。近年まで、伊吹山地が発生の南限とされてきた。成虫で越冬し、産卵する。孵化した幼虫はイラクサ・カラハナソウなどを食べて育つ。



生息環境 食草のある草原に生息する。1950年代には伊吹山の草原で多く採集・目撃されている。なお、近隣の地で、伊吹山から飛来したと考えられる採集記録も2個体あり、伊吹山地が南限とされてきた。彦根市では、1956年4月9日に中山町で記録しているが、伊吹山地からの飛来と考えられる。

減少の要因 1996年度以降の目撃・採集記録は見聞きしていない。

備考 記載をした外国人がクジャクチョウの美を日本の芸者さんに例え、geishaを亜種名とした。

科名	種名	分布状況等	国	県	市
	学名				
セセリチョウ科	ミヤマセセリ	男鬼町、小野町、笹尾町、荘厳寺町、善谷町、中山町、原町、仏生寺町、武奈町、佐和山			
	<i>Erynnis montanus</i>				
	ダイミョウセセリ	男鬼町、鳥居本町、原町、仏生寺町、武奈町、荒神山、佐和山、彦根城			
	<i>Daimio tethys daiseni</i>				
	アオバセセリ	男鬼町、武奈町			
	<i>Choaspes benjaminii japonica</i>				
	ホソバセセリ	男鬼町、武奈町			
	<i>Isoteinon lamprospilus</i>				
	ヒメキマダラセセリ	男鬼町、武奈町			
	<i>Ochlodes ochraceus rikachina</i>				
	キマダラセセリ	市内各地			
	<i>Potanthus flavus</i>				
	コチャバネセセリ	市内各地			
	<i>Thoressa varia</i>				
オオチャバネセセリ	市内各地				
<i>Polytremis pellucida</i>					
チャバネセセリ	市内各地				
<i>Pelopidas mathias oberthueri</i>					
ミヤマチャバネセセリ	男鬼町、武奈町			D	
<i>Pelopidas jansonis</i>					
イチモンジセセリ	市内各地				
<i>Pamara guttata</i>					
アゲハチョウ科	ウスバシロチョウ	男鬼町、中山町、武奈町			
	<i>Parnassius glacialis</i>				
	ギフチョウ	小野町、荘厳寺町、鳥居本町、中山町、原町、仏生寺町	VU	III	D
	<i>Luehdorfia japonica</i>				
	ジャコウアゲハ	岡町、開出今町、河原一丁目、芹中町、鳥居本町、中藪町、中山町、八坂町、雨壺山、彦根城			D
	<i>Atrophaneura alcinous</i>				
アオスジアゲハ	市内各地				
<i>Graphium sarpedon nipponum</i>					
キアゲハ	市内各地				
<i>Papilio machaon hippocrates</i>					

科名	種名	分布状況等	国	県	市
	学名				
アゲハチョウ科	アゲハ	市内各地			
	<i>Papilio xuthus</i>				
	オナガアゲハ	男鬼町、荘厳寺町、善谷町、武奈町、雨壺山、彦根城			
	<i>Papilio macilentus</i>				
	クロアゲハ	市内各地			
	<i>Papilio protenor demetrius</i>				
	ナガサキアゲハ	岡町、小泉町、芹中町、大東町、鳥居本町、原町、日夏町			
	<i>Papilio memnon thunbergii</i>				
	モンキアゲハ	男鬼町、笹尾町、中山町、原町、仏生寺町、武奈町、雨壺山、荒神山、彦根城			
<i>Papilio helenus nicconicolens</i>					
カラスアゲハ	男鬼町、武奈町、雨壺山、荒神山、彦根城				
<i>Papilio bianor dehaanii</i>					
ミヤマカラスアゲハ	男鬼町、武奈町、雨壺山、荒神山、彦根城				
<i>Papilio maackii tutanus</i>					
シロチョウ科	キチョウ	市内各地			
	<i>Eurema hecabe mandarina</i>				
	ツマグロキチョウ	男鬼町、金亀町、新海町、鳥居本町、中山町、武奈町、雨壺山	VU		B
	<i>Eurema laeta betheseba</i>				
	スジボソヤマキチョウ	男鬼町、武奈町			
	<i>Gonepteryx aspasia nipponica</i>				
	モンキチョウ	市内各地			
	<i>Colias erate poliographus</i>				
	ツマキチョウ	市内各地			
	<i>Anthocharis scolymus</i>				
モンシロチョウ	市内各地				
<i>Pieris rapae crucivora</i>					
スジグロシロチョウ	市内各地				
<i>Pieris melete</i>					
エゾスジグロシロチョウ	男鬼町、武奈町				
<i>Pieris napi nesis</i>					
マダラチョウ科	アサギマダラ	男鬼町、武奈町、雨壺山、荒神山、彦根城			
	<i>Parantica sita nipponica</i>				

科名	種名	分布状況等	国	県	市
	学名				
テングチョウ科	テングチョウ	市内各地			
	<i>Libythea celtis celtoides</i>				
タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン	男鬼町、武奈町			
	<i>Argyronome laodice japonica</i>				
	オオウラギンスジヒョウモン	男鬼町、荘厳寺町、善谷町、武奈町、雨壺山、荒神山			
	<i>Argyronome ruslana lysippe</i>				
	ミドリヒョウモン	男鬼町、荘厳寺町、善谷町、武奈町、雨壺山、荒神山			
	<i>Argynnis paphia geisha</i>				
	クモガタヒョウモン	男鬼町、原町、仏生寺町、武奈町、雨壺山		III	D
	<i>Nephargynnis anadyomene midas</i>				
	メスグロヒョウモン	男鬼町、原町、仏生寺町、武奈町			
	<i>Damora sagana liane</i>				
	ウラギンヒョウモン	男鬼町、仏生寺町、武奈町			
	<i>Fabriciana adippe pallescens</i>				
	オオウラギンヒョウモン	荘厳寺町、仏生寺町	CR+EN	I	A
	<i>Fabriciana nerippe</i>				
	ツماغロヒョウモン	市内各地			
	<i>Argyreus hyperbius</i>				
	イチモンジチョウ	市内各地			
	<i>Limenitis camilla japonica</i>				
	アサマイチモンジ	男鬼町、岡町、武奈町、彦根城			
	<i>Limentis giorifica</i>				
コムスジ	市内各地				
<i>Neptis sappho intermedia</i>					
ミスジチョウ	男鬼町、笹尾町、仏生寺町、武奈町				
<i>Neptis philyra excellens</i>					
サカハチチョウ	男鬼町、仏生寺町、武奈町				
<i>Araschnia burejana strigosa</i>					
キタテハ	市内各地				
<i>Polygonia c-aureum</i>					
シータテハ	中山町、原町			E	
<i>Polygonia c-album hamigera</i>					

科名	種名	分布状況等	国	県	市
	学名				
タテハチョウ科	ルリタテハ	市内各地			
	<i>Kaniska canace no-japonicum</i>				
	ヒオドシチョウ	男鬼町、善谷町、鳥居本町、中山町、原町、武奈町、雨壺山、荒神山、彦根城			
	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>				
	クジャクチョウ	中山町			E
	<i>Inachis io geisha</i>				
	ヒメアカタテハ	市内各地			
	<i>Cynthia cardui</i>				
	アカタテハ	市内各地			
	<i>Vanessa indica indica</i>				
	スミナガシ	男鬼町、荘厳寺町、武奈町			
	<i>Dichorragia nesimachus nesiotetes</i>				
	コムラサキ	市内各地			
	<i>Apatura metis substituta</i>				
ゴマダラチョウ	市内各地				
<i>Hestina persimilis japonica</i>					
オオムラサキ	男鬼町、笹尾町、荘厳寺町、鳥居本町、中山町、仏生寺町、武奈町、雨壺山、佐和山	NT	II	D	
<i>Sasakia charonda charonda</i>					
シジミチョウ科	ムラサキシジミ	市内各地			
	<i>Narathura japonica</i>				
	ウラゴマダラシジミ	宇尾町、男鬼町、笹尾町、荘厳寺町、鳥居本町、中山町、原町、仏生寺町、武奈町、佐和山、犬上川流域、愛知川流域、彦根城			D
	<i>Artopoetes pryeri</i>				
	ウラキンシジミ	男鬼町、小野町、仏生寺町、武奈町			D
	<i>Ussuriana stygiana</i>				
	アカシジミ	男鬼町、笹尾町、原町、仏生寺町、武奈町、雨壺山、荒神山、佐和山、愛知川流域、彦根城			D
	<i>Japonica lutea</i>				
	ウラナミアカシジミ	鳥居本町			B
	<i>Japonica saepestriata</i>				
ミズイロオナガシジミ	男鬼町、笹尾町、鳥居本町、中山町、原町、仏生寺町、武奈町、雨壺山、荒神山、愛知川流域			D	
<i>Antigius attilia</i>					
ウスイロオナガシジミ	武奈町			B	
<i>Antigius butleri</i>					

科名	種名	分布状況等	国	県	市
	学名				
シジミチョウ科	ウラクロシジミ	男鬼町、笹尾町、原町、武奈町			D
	<i>Iratsume orsedice</i>				
	ミドリシジミ	笹尾町、鳥居本町、中山町			D
	<i>Neozephyrus japonicus</i>				
	アイノミドリシジミ	武奈町			C
	<i>Crysozephyrus brilliantinus</i>				
	ヒサマツミドリシジミ	武奈町			C
	<i>Chrysozephyrus hisamatsusanus</i>				
	キリシマミドリシジミ	男鬼町、武奈町			D
	<i>Crysozephyrus ataxus kirishimaensis</i>				
	フジミドリシジミ	武奈町			B
	<i>Sibatanozephyrus fujisanus</i>				
	ウラジロミドリシジミ	下稲葉町・服部町の愛知川流域		III	
	<i>Favonius saphirinus</i>				
	オオミドリシジミ	男鬼町、笹尾町、荘厳寺町、鳥居本町、中山町、仏生寺町、武奈町、雨壺山、佐和山、彦根城			D
	<i>Favonius orientalis</i>				
	エゾミドリシジミ	武奈町			C
	<i>Favonius jezoensis</i>				
	トラフシジミ	男鬼町、善谷町、鳥居本町、中山町、原町、仏生寺町、武奈町、佐和山			
	<i>Rapala arata</i>				
ミヤマカラスシジミ	男鬼町		III	D	
<i>Fixsenia mera</i>					
コツバメ	男鬼町、中山町、原町、仏生寺町、佐和山				
<i>Callophrys ferrea</i>					
ベニシジミ	市内各地				
<i>Lycaena phlaeas daimio</i>					
ゴイシジミ	尾末町、中山町、武奈町、雨壺山		III	D	
<i>Taraka hamada</i>					
ウラナミシジミ	市内各地				
<i>Lampides boeticus</i>					
ヤマトシジミ	市内各地				
<i>Pseudozizeeria maha argia</i>					

科名	種名	分布状況等	国	県	市
	学名				
シジミチョウ科	シルビアシジミ	武奈町	CR+EN	I	A
	<i>Zizina otis emelina</i>				
	ルリシジミ	市内各地			
	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>				
	ツバメシジミ	市内各地			
	<i>Everes argiades hellotia</i>				
ウラギンシジミ	市内各地				
<i>Curetis acuta paracuta</i>					
ジャノメチョウ科	ヒメウラナミジャノメ	市内各地			
	<i>Ypthima argus argus</i>				
	ジャノメチョウ	武奈町			
	<i>Minois dryas bipunctus</i>				
	ヒメキマダラヒカゲ	男鬼町、武奈町			
	<i>Zophoessa callipteris</i>				
	クロヒカゲ	市内各地			
	<i>Lethe diana</i>				
	ヒカゲチョウ	市内各地			
	<i>Lethe sicelis</i>				
	ヤマキマダラヒカゲ	男鬼町、武奈町			
	<i>Neope niponica</i>				
	サトキマダラヒカゲ	市内各地			
	<i>Neope goschkevitschii</i>				
	ヒメジャノメ	市内各地			
<i>Mycalesis gotama fulginia</i>					
コジャノメ	市内各地				
<i>Mycalesis francisca perdiccas</i>					
クロノマチョウ	尾末町、雨壺山				
<i>Melanitis phedima oitensis</i>					

科名	種名	生息環境	国	県
	学名			
カワトンボ科	ハグロトンボ	水生植物の生息するゆるい流れのところ		
	<i>Calopteryx atrata</i>			
	ミヤマカワトンボ	山地帯の溪流		
	<i>Calopteryx cornelia</i>			
	オオカワトンボ	植物が繁茂する開けた明るい清流		
	<i>Mnais pruinosa nawai</i>			
ヒウラカワトンボ	山地の清流			
<i>Mnais pruinosa pruinosa</i>				
アオイトトンボ科	アオイトトンボ	平地から山地の挺水植物のあるやや開けた池沼		
	<i>Lestes sponsa</i>			
	オオアオイトトンボ	周囲を樹木に囲まれたやや暗い池		
	<i>Lestes temporalis</i>			
	コバネアオイトトンボ	平地のヨシなど挺水植物の豊富な池沼に生息していることが多く、産地は局限される。	VU	
<i>Lestes japonicus</i>				
ホソミオツネトンボ	挺水植物のある池沼			
<i>Indolestes peregrinus</i>				
イトトンボ科	クロイトトンボ	池沼などの止水域		
	<i>Cercion calamorum</i>			
	セスジイトトンボ	浮葉植物がある湖や河川の暖流域、水郷地帯の用水路など		
	<i>Cercion hieroglyphicum</i>			
	ムスジイトトンボ	平地の浮葉植物のある池沼・河川のよどみや水路・琵琶湖岸		
	<i>Cercion sexlineatum</i>			
	アジイトトンボ	池などの止水域		
	<i>Ischnura asiatica</i>			
アオモンイトトンボ	ヨシなどの挺水植物のある止水域や河川のよどみ			
<i>Ischnura senegalensis</i>				
キイトトンボ	挺水植物のある池沼や湿地・浅い水域			
<i>Ceriagrion melanurum</i>				
モノサシトンボ科	モノサシトンボ	樹陰のある池沼・河川のよどみ		
<i>Copera annulata</i>				
ヤンマ科	マルタンヤンマ	植生の豊かな池沼		
	<i>Anaciaeschna martini</i>			

科名	種名	生息環境	国	県
	学名			
ヤンマ科	クロスジゲンヤンマ	樹陰のある閉鎖的な池		
	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>			
	ゲンヤンマ	平地から低山地の池沼、河川のよどみ		
	<i>Anax parthenope julius</i>			
	カトリヤンマ	うっそうとした林のある水田・廃田湿地		
	<i>Gynacantha japonica</i>			
	ヤブヤンマ	林に囲まれた閉鎖的な池沼		
	<i>Polycanthagyna melanictera</i>			
	アオヤンマ	ヨシなどの挺水植物が多く、泥深い池沼		
	<i>Aeschnophlebia longistigma</i>			
	ミルンヤンマ	低山地から山地にかけての池沼		
	<i>Planaeschna milnei</i>			
	コシボシヤンマ	平地から低山地にかけての木陰の多い河川		
	<i>Boyeria maclachlani</i>			
ルリボシヤンマ	寒冷な比較的標高の高いところの池や湿原			
<i>Aeschna juncea</i>				
オオルリボシヤンマ	丘陵地から山地にかけての林に囲まれた池沼			
<i>Aeschna nigroflava</i>				
サラサヤンマ	丘陵地から低山地で、ハンノキなどの灌木が生える湿地や廃田跡			
<i>Oligoaeschna pryeri</i>				
ムカシヤンマ科	ムカシヤンマ	丘陵地から山地の湧水が斜面からしみだすような谷戸や溪流沿い		
	<i>Tanypteryx pryeri</i>			
オニヤンマ科	オニヤンマ	平地から山地の河川・水路・湿地・池など		
	<i>Anotogaster sieboldii</i>			
サナエトンボ科	ミヤマサナエ	平地や丘陵地の中・下流域とそれにつながる用水路		
	<i>Anisogomphus maacki</i>			
	ヤマサナエ	河川流域・用水路などの小さい流れのところ		
	<i>Asiagomphus melaenops</i>			
	キイロサナエ	丘陵地や低山地の河川中流域		
<i>Asiagomphus pryeri</i>				
ホンサナエ	湖岸			
	<i>Gomphus postocularis</i>			

科名	種名	生息環境	国	県
	学名			
サナエトンボ科	メガネサナエ	湖岸		
	<i>Stylurus oculus</i>			
	コオニヤンマ	丘陵地から低山地の礫質の河川上中流域、湖岸の礫質		
	<i>Sieboldius albardae</i>			
	ウチワヤンマ	平地から丘陵地の開放的で比較的大きな池		
	<i>Ictinogomphus clavatus</i>			
	クロサナエ	河川の源流から上流部		
	<i>Davidius fujiana</i>			
	ダビドサナエ	低山地から山地の溪流		
	<i>Davidius nanus</i>			
	ヒメクロサナエ	山地の溪流		
	<i>Lanthus fujiacus</i>			
	オジロサナエ	山地の溪流		
	<i>Stylogomphus suzukii</i>			
	タバサナエ	丘陵地から低山地の池沼や細い溪流		
	<i>Trigomphus citimus tabei</i>			
フタスジサナエ	平地から丘陵地の古い溜池			
<i>Trigomphus interruptus</i>				
オグマサナエ	平地から丘陵地の泥底のある古い溜池やそれに続く暖流			
<i>Trigomphus ogumai</i>				
アオサナエ	河川の上流から中流、湖岸			
<i>Nihogomphus viridis</i>				
オナガサナエ	平地から丘陵地、低山地の河川上流から中流域			
<i>Onychogomphus viridicosta</i>				
オオサカサナエ	湖岸			
<i>Stylurus annulatus</i>				
エゾトンボ科	トラフトンボ	平地から丘陵地の浮葉植物が豊富な池沼		
	<i>Epitheca marginata</i>			
	タカネトンボ	低山地から山地で周囲を樹陰で囲まれた閉鎖的な池沼		
	<i>Somatochlora uchidai</i>			
エゾトンボ	平地から丘陵地の湿地			
<i>Somatochlora viridiaenea viridiaenea</i>				

科名	種名	生息環境	国	県
	学名			
エゾトンボ科	オオヤマトンボ	平地から丘陵地の開けた水面をもつ比較的大きな池沼		
	<i>Epopthalmia elegans</i>			
	コヤマトンボ	平地から山地の河川上中流域、水路		
	<i>Macromia amphigena amphigena</i>			
トンボ科	ハッチョウトンボ	丘陵地から低山地で、水はけが悪く栄養分の乏しい湿地。日当たりがよく、モウセンゴケ、サギソウなど酸性湿地植物が好む環境		
	<i>Nannophya pygmaea</i>			
	ヨツボシトンボ	挺水植物が豊富な池沼		
	<i>Libellula quadrimaculata asahinai</i>			
	ハラビロトンボ	平地から丘陵地の日当たりのよい浅い湿地から休耕田		
	<i>Lyriothemis pachygastra</i>			
	シオカラトンボ	池沼、湿地、河川のよどみ、水田、貯水池		
	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>			
	シオヤトンボ	平地から山地にかけての水田・池沼・湿地		
	<i>Orthetrum japonicum japonicum</i>			
	オオシオカラトンボ	水田、池沼、湿地、溝川		
	<i>Orthetrum triangulare melania</i>			
	ショウジョウトンボ	平地から低山地の多少、植物がある開けた明るい池沼		
	<i>Crocothemis servilia mariannae</i>			
	コフキトンボ	平地から丘陵地のヨシなどの挺水植物がある泥深い開けた池沼		
	<i>Deielia phaon</i>			
	キトンボ	木立が隣接し、水の澄んだ大きな池沼。湖岸沿いの内湖		
	<i>Sympetrum croceolum</i>			
	ナツアカネ	池沼、湿地、水田		
	<i>Sympetrum darwinianum</i>			
マユタテアカネ	池沼、水田			
<i>Sympetrum eroticum eroticum</i>				
アキアカネ	池沼、湿地、水田			
<i>Sympetrum frequens</i>				
ノシメトンボ	開けた池沼、水田			
<i>Sympetrum infuscatum</i>				
マイコアカネ	平地から低山地の池沼・水田			
<i>Sympetrum kunckeli</i>				

科名	種名	生息環境	国	県
	学名			
トンボ科	ヒメアカネ	湿地、廃田湿地		
	<i>Sympetrum parvulum</i>			
	ミヤマアカネ	水田地帯、湿原		
	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>			
	リスアカネ	周囲を木立に囲まれたやや暗い池沼		
	<i>Sympetrum risi risi</i>			
	ネキトンボ	水の澄んだ深い池沼		
	<i>Sympetrum speciosum speciosum</i>			
	コシアキトンボ	池沼、河川の上流、人工的な貯水池、池		
	<i>Pseudothemis zonata</i>			
	チョウトンボ	ヒシなどの浮葉植物が多い腐植栄養型の池沼		
	<i>Rhyothemis fuliginosa</i>			
	ウスバキトンボ	池沼、湿地、水田、一時的な水溜り、プール		
	<i>Pantala flavescens</i>			
コノシメトンボ	開放的なやや泥深い池沼		III	
<i>Sympetrum baccha matutinum</i>				
ナニワトンボ	古く周囲に木立を伴う自然度の高いすり鉢状の池沼			
<i>Sympetrum gracile</i>				
オオキトンボ	平地から丘陵地にかけての挺水植物のある開けた池沼	VU	III	
<i>Sympetrum uniforme</i>				

科名	種名	生息環境	国	県
	学名			
セミ科	クマゼミ	市街地		
	<i>Cryptotympana facialis</i>			
	アブラゼミ	市街地～山林		
	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>			
	ミンミンゼミ	平地から低山地の湿性樹林		
	<i>Oncotympana maculaticollis</i>			
	ニイニイゼミ	平地から山地		
	<i>Platypleura kaempferi</i>			
	ヒグラシ	低山地のスギ林など湿った林		
	<i>Tanna japonensis</i>			
ハルゼミ	低山地のマツ山		VI	
<i>Terpnosia vacua</i>				
ツクツクボウシ	平地から山地の樹林			
<i>Meimuna opalifera</i>				
チッチゼミ	アカマツ、スギ、ヒノキの針葉樹林			
<i>Cicadetta radiator</i>				